

十勝岳

1 概況（平成14年9月）

9月22日に小さな火山性微動が発生しました。また、9月7日に地震がやや増加しましたが、いずれも噴煙などの表面現象に変化はありませんでした。62-2火口は高温で活発な噴煙活動が続くなど火山活動は高いレベルを維持しています。

2 噴煙活動の状況

62-2火口では活発な噴煙活動が続いており、噴煙高度は概ね火口上200～300mで推移しました。風が弱い時には一時的に800～900mの高さに達することもありました。

3 地震活動の状況

9月22日20時29分頃に継続時間約2分の小さな火山性微動（最大振幅はH点で0.15ミクロメートル）が発生しました。微動の前後に地震の増加はなく、表面現象にも特別な変化はありませんでした。微動の発生は今年5月7日以来のことです。また、9月7日には地震がややまとまって発生し（日回数21回）2001年10月10日以来の回数となりました。震源はほとんどが62火口群付近と推定されます。それ以外は1日あたり0～8回と通常のレベルで推移しました。

月別地震・微動回数

平成13～14年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
地震回数H点	83	35	30	43	42	34	30	28	14	28	28	113
地震回数A点	5	7	3	9	11	10	10	10	4	5	11	21
微動回数H点	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1

4 地殻変動の状況

G P S 観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。

5 火口・地熱域の状況

9月17～19日に調査観測を行いました。62-2火口では高温の状態が続いています。

【62-2火口】

噴煙には刺激臭が認められ、火口全体から強いジェット音を伴って勢いよく噴出していました。火口内は噴煙が充満しており詳細は不明ですが、北西内壁の噴気孔の黒く焼けた部分や鮮黄色の昇華物がわずかに確認できました。赤外放射温度計*により火口縁（距離約40m）から測定した最高温度は382（今年6月は415）と引き続き高温を維持しています。

【62-1火口】

6月の観測で地熱域の広がりが見られた東壁は、白色～黄色の変色域に変化が認められないこと、地中温度は引き続き沸点程度であることから、地熱域が更に拡大活発化した様子はありませんでした。

【62火口周辺の地熱域】

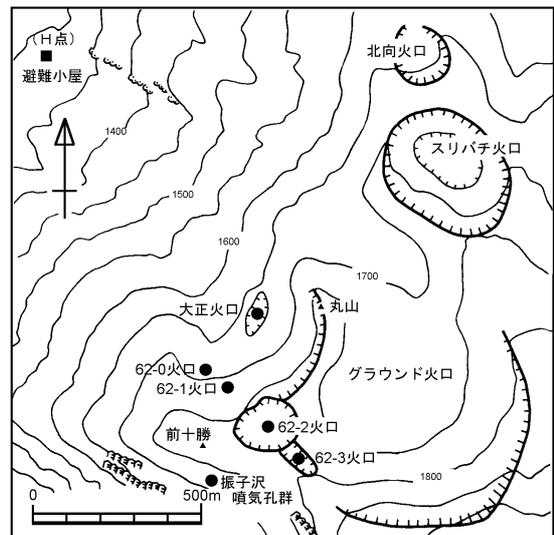
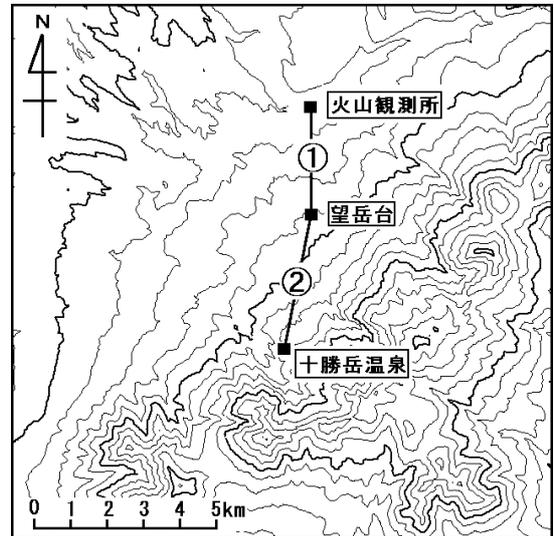
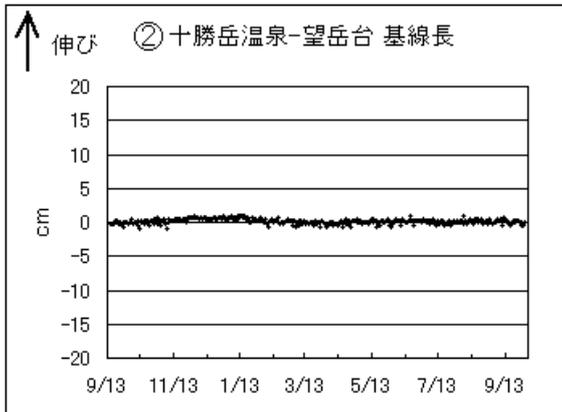
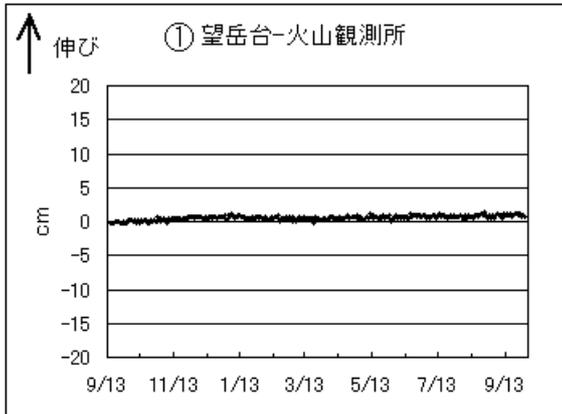
62-0火口、振子沢噴気孔群などでは弱い噴気活動と沸点程度の地熱活動が続いています。

【大正火口】

東側火口壁上部には数か所のやや活発な噴気孔があり、その周辺は硫黄昇華物のため鮮やかな黄色に変色しています。噴気の状態や変色域等に大きな変化は見られませんでした。

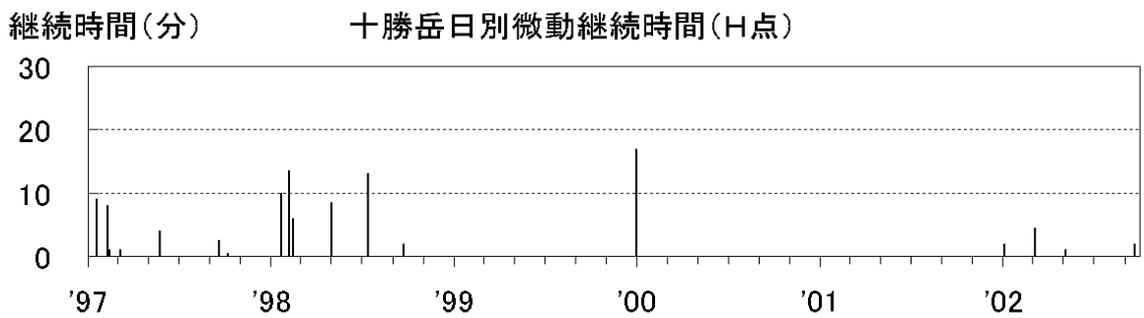
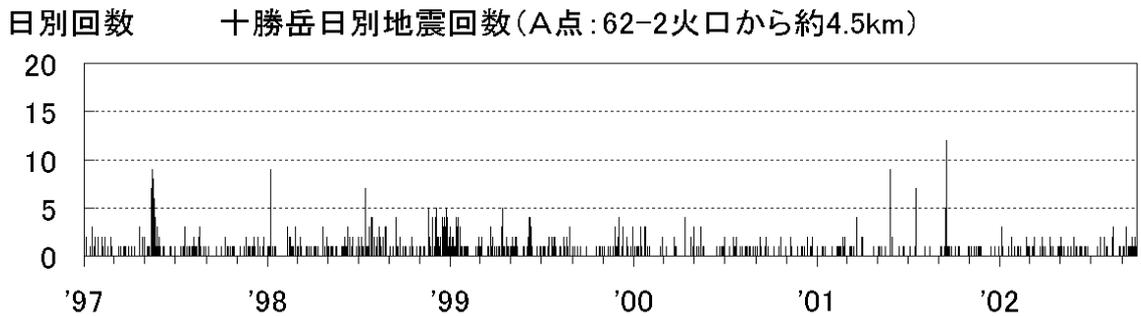
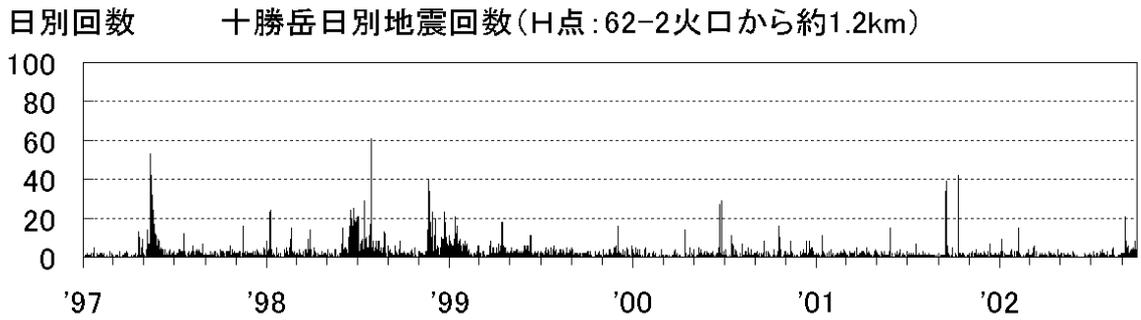
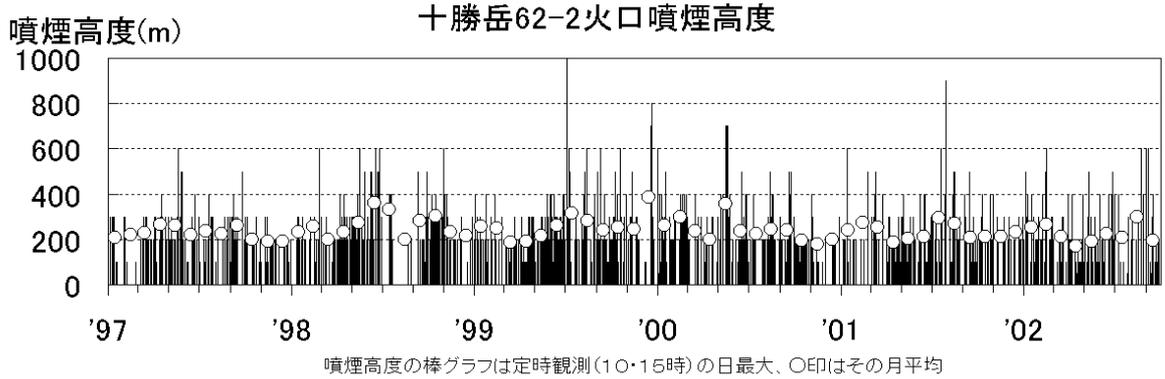
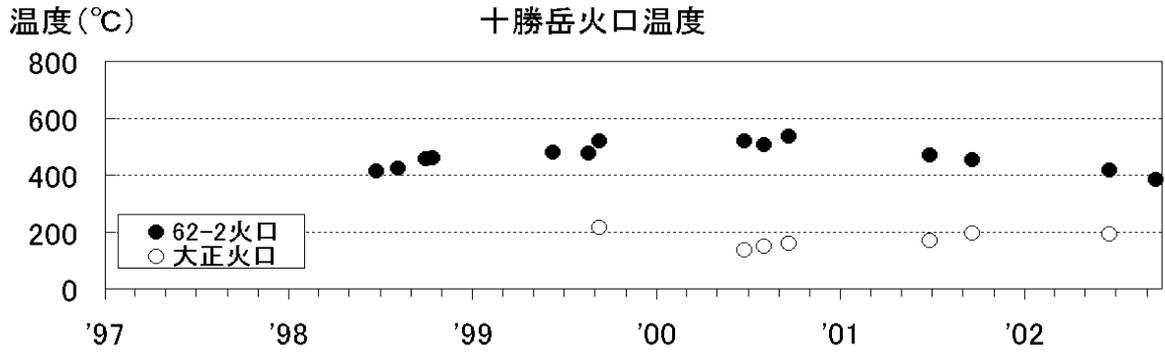
* 赤外放射温度計

物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器。熱源から離れた所から温度を測定できるが、噴煙などではっきり対象が見えない場合や熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。



火口周辺図

十勝岳基線長グラフ(2001年9月13日~2002年9月30日)



十勝岳火山活動経過図(1997年1月1日~2002年9月30日)